

# 個人山行報告

## 鳥海山（報告者：T.F）

3/18～20 L:A & K,F（3名）

1 日目は風が強く、河原宿小屋跡まで行く予定でしたが、滝の小屋で一泊となりました。

雪は想定より少なく軽めのラッセルで小屋までたどり着きましたが、12時に小屋に着いた時点で視界が雪で遮られ、東北の山の厳しさを早速思い知るようになりました。

少し休憩して散歩に行こうとしたのですが、完全にホワイトアウト状態で、声が聞こえない、小屋が見えなくなる、ということで10分くらいで断念、、、。

小屋に戻る途中、Kさんが自信満々に「小屋はこっちだ!」というので、足元のトレースを追うのをやめ、指差す方向へ歩いていると、一瞬風が変わり小屋が見えましたが、小屋は思っていた場所と全く違う方向に。ああ、あっちだと二人ですごすご小屋に戻り、その日はこれ以上余計なことはしないことにしました。

小屋に入って昼食をとって17時まで仮眠。外は激しい風雪と雷が鳴り、登頂を諦めモードで宴会を始めました。

徳永英明さんのカバーアルバムを聞きながら山小屋貸切の中、3人で山の話で盛り上がりました。

翌日朝5時に目覚めると、昨日までの悪天は嘘のように晴れ渡っており、これは行くしかなないと、そそくさと準備をして、目覚めてから30分後に出発。

昨日のホワイトアウトが身に染みているため、小屋にあった赤旗をお借りし、旗をさしながらピークを目指しました。

あたりは雪しかなく目標となる目立つものもないため、コンパスとGPSを頼りに進んでいきます。

滝の小屋から鳥海山へ繋がる尾根に9時ごろ乗り、日本海が見える東北ならではの展望のなか尾根を進み、凍りつく道を歩きながら七高山付近まで到着。

鳥海山ピークへ行くための夏道は消え、急斜面を下るしかない状況になりました。

ピークが見えても行けない状況に歯がゆい思いをしながら、コースを探していると少し

遅れてAさんが到着。「これは厳しいな、ここまでだな」とAさん。

パンを食べながら少し休んでいると、いつの間にかKさんが既にピーク側からこちらを見ていたので着いて行くことにしました。

Aさんは別ルートを探していたので遅れて合流。3人でピークを踏みました。日本海からの強風が吹く中、記念撮影をしました。雲の上から見える景色を見ながら「いい山に来た」と心から思えました。

天候の崩れが怖いので、早めに下山することに。お借りした赤旗を回収し、滝の小屋へ到着。3人で握手をし、本日の山行を噛みしめました。

「心の暖かさ、太陽暑さ、宇宙の広さ～、を知ると山は登れる」と意味不明なことを言うKさんは無視が安定です。



（いい山のとっぺんで、日本海を望む）